

生活衛生関係営業の景気動向等調査結果

－2014年10～12月期－

I 景気の動向

持ち直しの動きが続いているものの、回復に弱さがみられる生活衛生関係営業の景況

今期（2014年10～12月期）の売上、採算、業況判断の各D Iは、▲22.9（前期比6.2ポイント低下）、▲8.5（同4.1ポイント低下）、▲21.6（同5.6ポイント低下）となりました。前年同期に対しては、売上D Iは2.5ポイント、採算D Iは0.8ポイント上昇しましたが、業況判断D Iは1.8ポイント低下しました。

生活衛生関係営業の景況は、持ち直しの動きが続いているものの、回復に弱さがみられます。

また、来期の売上、業況判断D I見通しは▲21.4、▲26.0と、それぞれ1.5ポイントの上昇（売上D I）、4.4ポイントの低下（業況判断D I）を見込んでいます。

（注）D I＝良い（増加・黒字・好転）企業割合－悪い（減少・赤字・悪化）企業割合

調査時点	2014年12月上旬			
調査方法	訪問調査			
調査対象	生活衛生関係営業3,220企業			
有効回答企業数	3,039企業（回答率94.4%）			
（業種内訳）	飲食業	1,450企業	映画館	54企業
	食肉・食鳥肉販売業	149企業	ホテル・旅館業	164企業
	氷雪販売業	56企業	公衆浴場業	111企業
	理容業	372企業	クリーニング業	252企業
	美容業	431企業		

この調査は、全国の生活衛生関係営業の主な業種について、その景気や設備投資の動向などを把握するため、定期的に（年4回）実施しているものです。

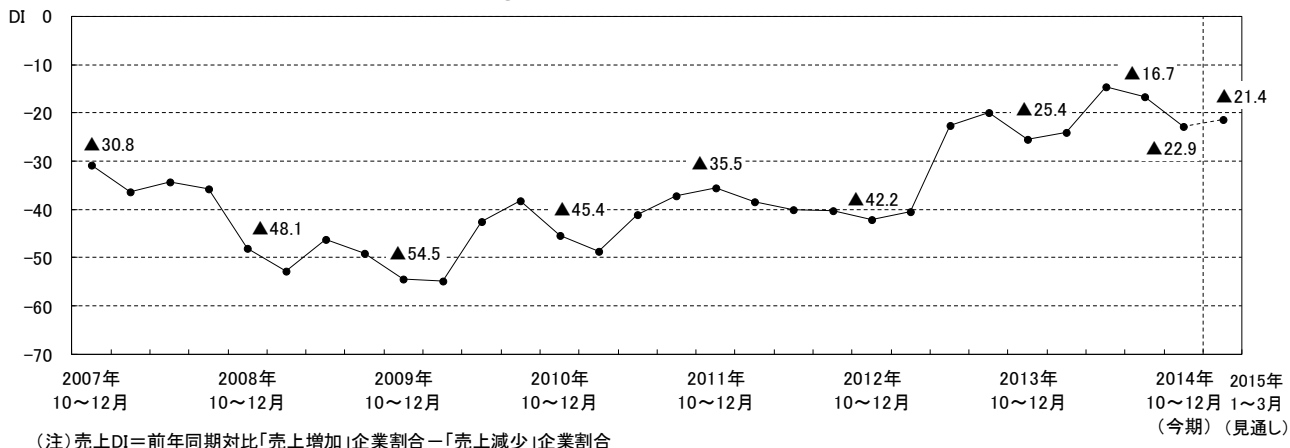
【本調査における留意事項】

- ・2012年4～6月期調査時点で調査対象企業の見直しが行われている。
- ・比率の算出にあたっては、無回答を除いたものを母数としている。

1. 売上

- 売上DIは、前期から6.2ポイント低下して▲22.9となりました。前年同期に対しては2.5ポイント上回りました。7期連続で前年同期の水準を上回りました。
来期の見通しは▲21.4と1.5ポイントの上昇を見込んでいます。

図 I - 1 - ① 売上DIの推移（全業種計）



- 業種別にみると、前期に比べ、「食肉・食鳥肉販売業」「ホテル・旅館業」「クリーニング業」の3業種で上昇しました。前年同期に対しては、「飲食業」「食肉・食鳥肉販売業」「理容業」「美容業」「公衆浴場業」「クリーニング業」の6業種で上回りました。来期の見通しは、「飲食業」「冰雪販売業」「理容業」「美容業」「映画館」の5業種で上昇を見込んでいます。
- 飲食業の業種別では、前期に比べ、上昇した業種はありませんでした。前年同期に対しては、「そば・うどん店」「中華料理店」「すし店」「その他飲食店」の4業種で上回りました。来期の見通しは、「中華料理店」「すし店」「料理店」「社交業」「その他飲食店」の5業種で上昇を見込んでいます。

図 I - 1 - ② 業種別売上DIの推移（飲食業を除く）

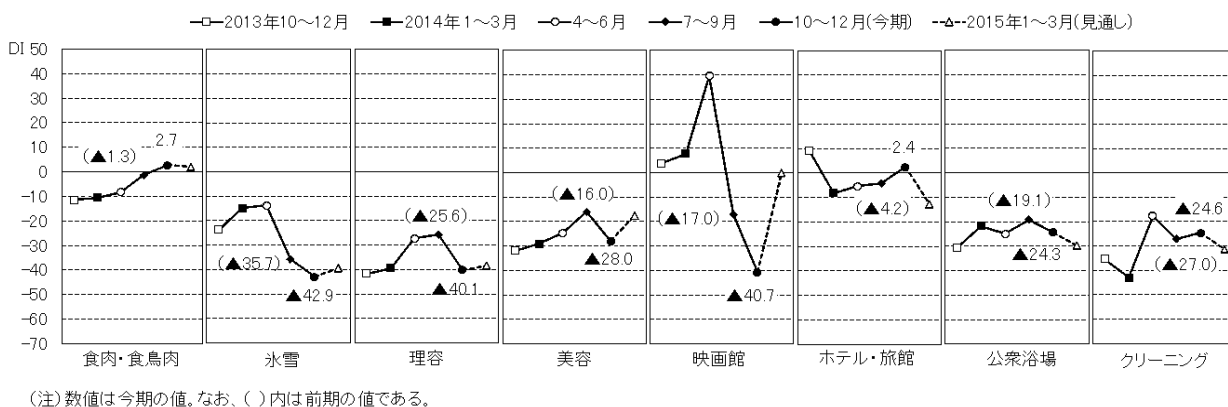
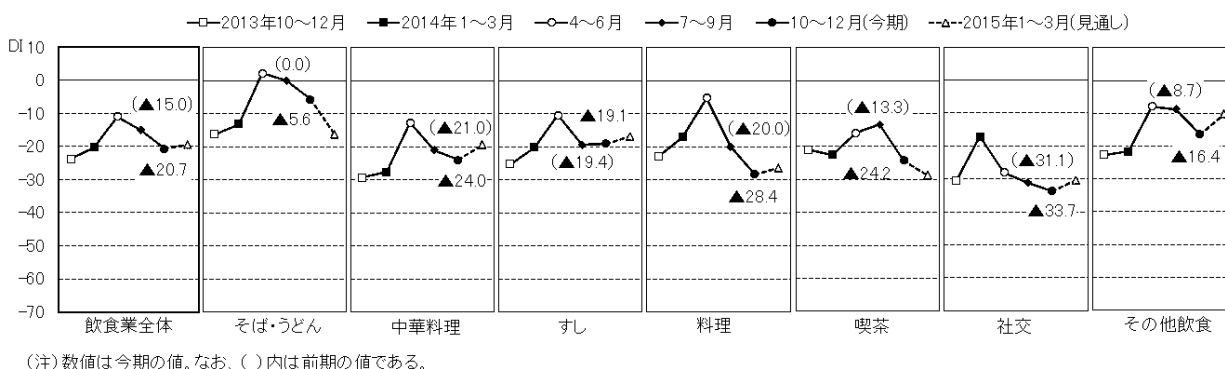


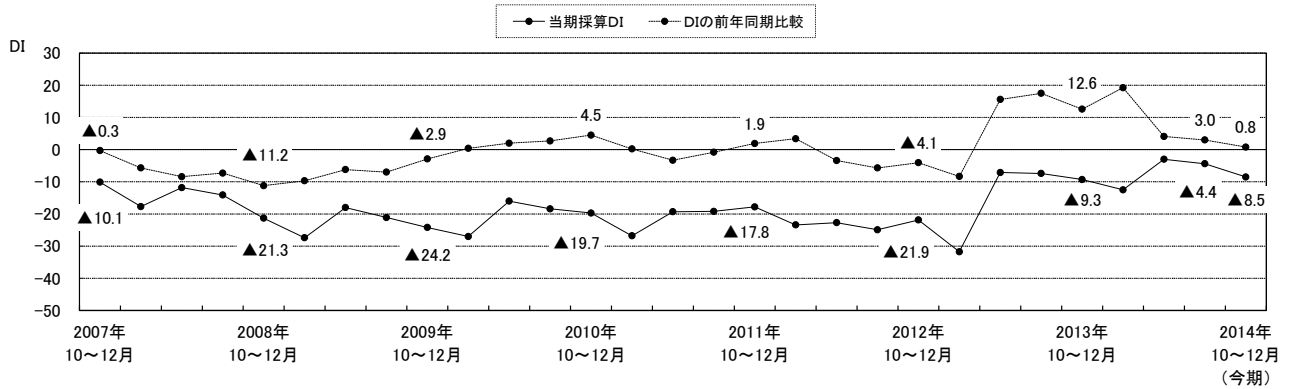
図 I - 1 - ③ 飲食業売上DIの推移



2. 採算

- 採算DIは、前期から4.1ポイント低下して▲8.5となりました。前年同期に対しては0.8ポイント上回りました。7期連続で前年同期の水準を上回りました。

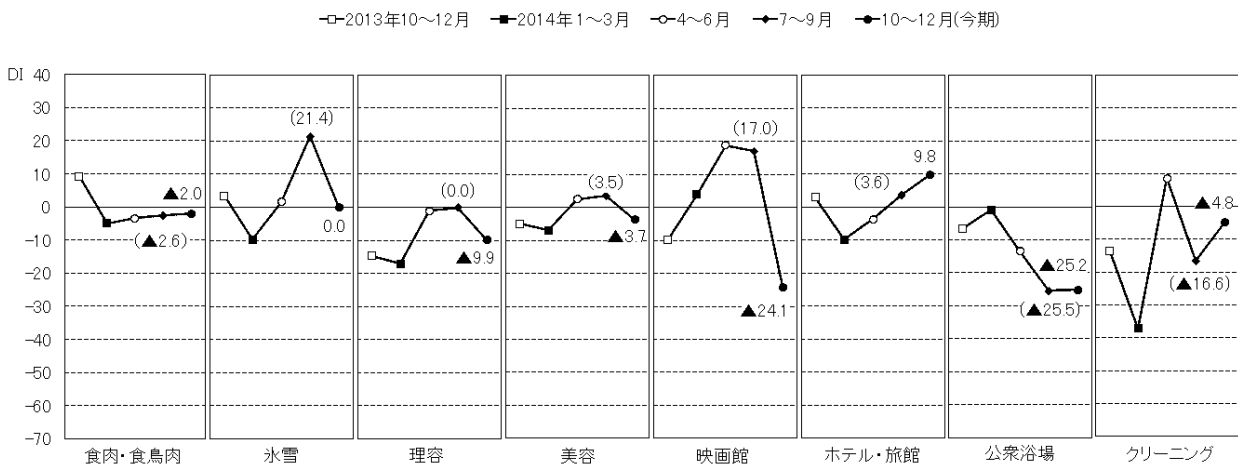
図I-2-① 採算DIの推移（全業種計）



(注) 1.採算DI=当該期「黒字」企業割合-「赤字」企業割合
2.DIの前年同期比較=「当該期の採算DI」-「その前年同期のDI」

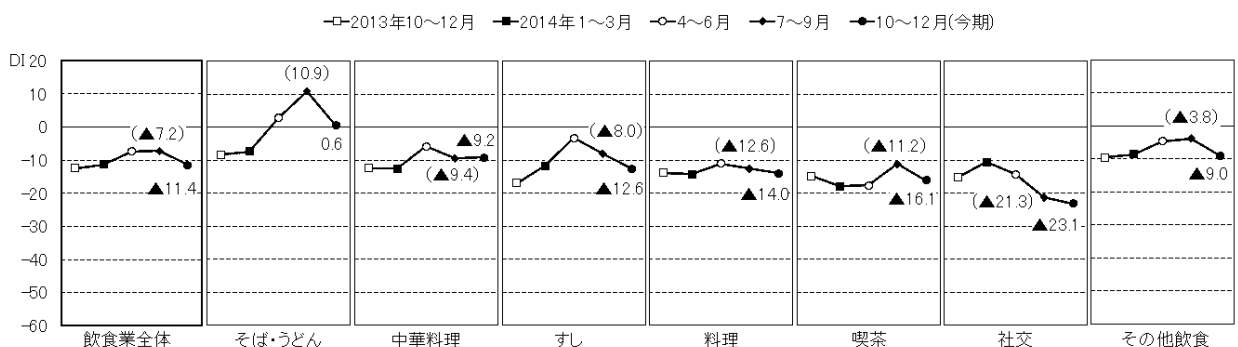
- 業種別にみると、前期に比べ、「食肉・食鳥肉販売業」「ホテル・旅館業」「クリーニング業」の3業種で上昇しました。前年同期に対しては、「飲食業」「理容業」「美容業」「ホテル・旅館業」「クリーニング業」の5業種で上回りました。
- 飲食業の業種別では、前期に比べ、上昇した業種はありませんでした。前年同期に対しては、「そば・うどん店」「中華料理店」「すし店」「その他飲食店」の4業種で上回りました。

図I-2-② 業種別採算DIの推移（飲食業を除く）



(注) 数値は今期の値。なお、()内は前期の値である。

図I-2-③ 飲食業採算DIの推移

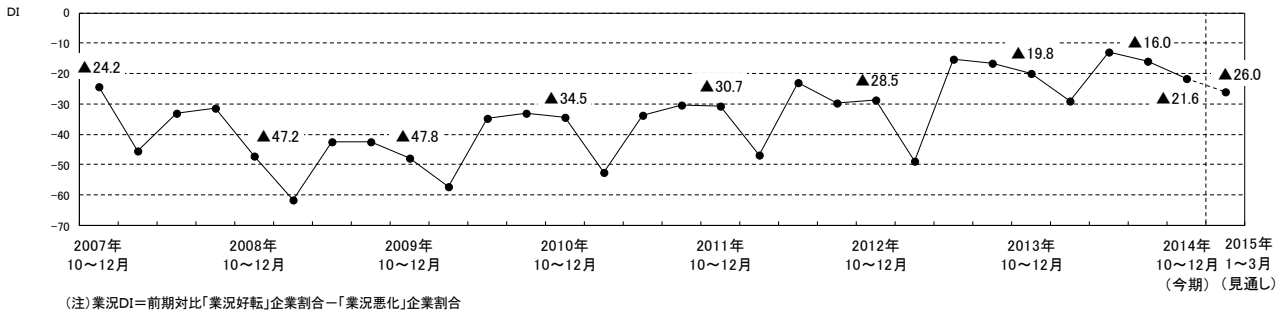


(注) 数値は今期の値。なお、()内は前期の値である。

3. 業況判断

- 業況判断DIは、前期から5.6ポイント低下して▲21.6となりました。前年同期に対しては1.8ポイント下回りました。7期ぶりに前年同期の水準を下回りました。
来期の見通しは▲26.0と4.4ポイントの低下を見込んでいます。

図 I - 3 - ① 業況判断DIの推移（全業種計）



- 業種別にみると、前期に比べ、「食肉・食鳥肉販売業」「公衆浴場業」「クリーニング業」の3業種で上昇しました。前年同期に対しては、「美容業」「映画館」「ホテル・旅館業」「公衆浴場業」の4業種で上回りました。
来期の見通しは、「冰雪販売業」「理容業」「美容業」「映画館」の4業種で上昇を見込んでいます。
- 飲食業の業種別では、前期に比べ、「料理店」「社交業」の2業種で上昇しました。前年同期に対しては、「その他飲食店」のみ上回りました。
来期の見通しは、「そば・うどん店」「中華料理店」「すし店」の3業種で上昇を見込んでいます。

図 I - 3 - ② 業種別業況判断DIの推移（飲食業を除く）

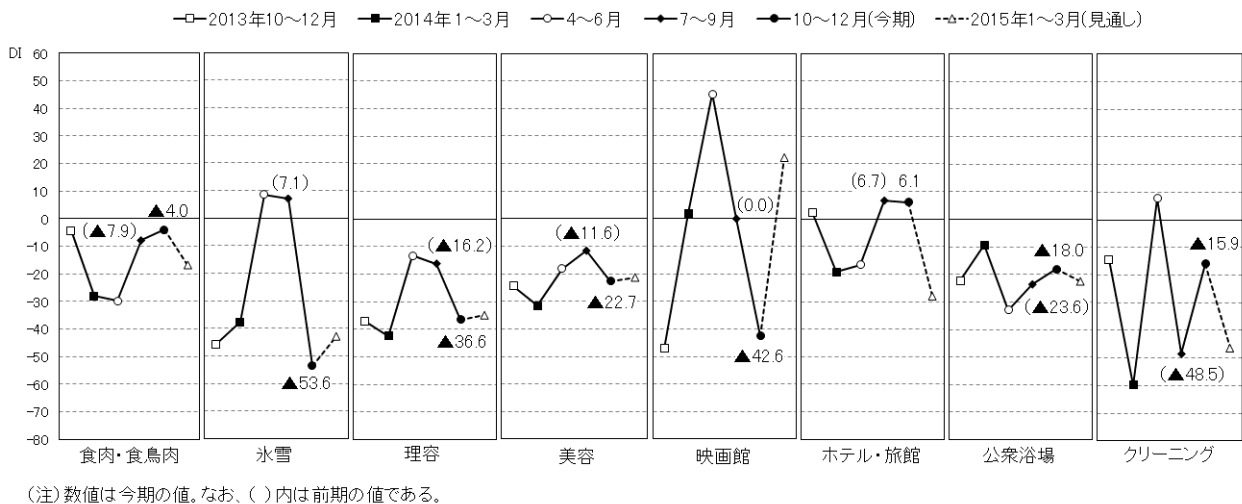
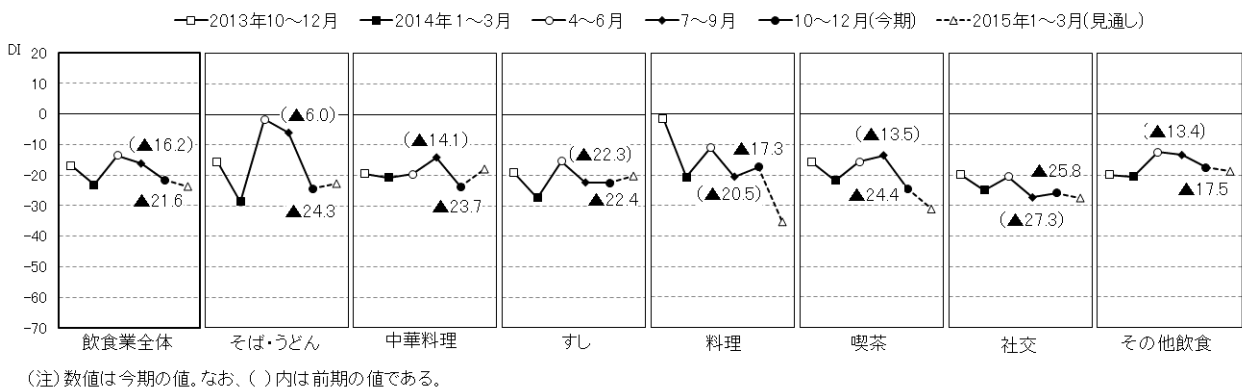


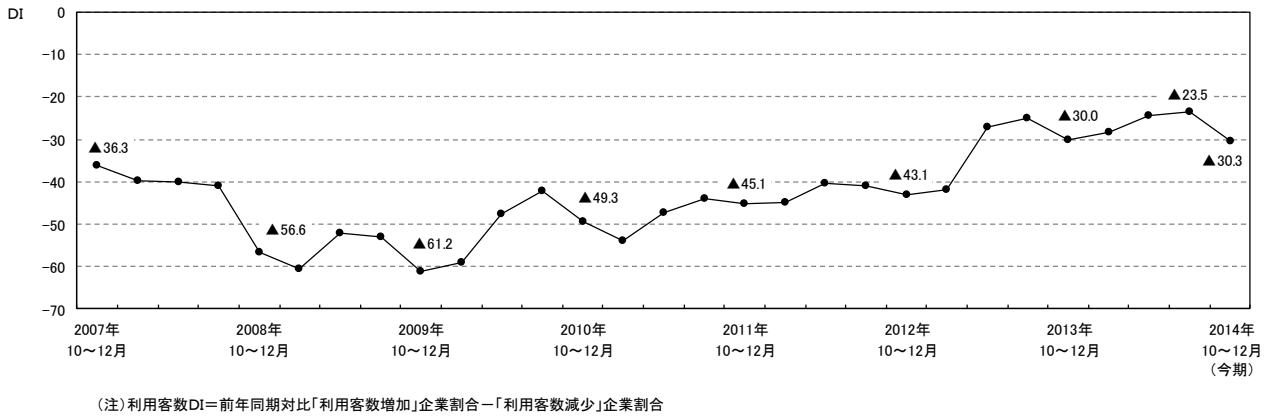
図 I - 3 - ③ 飲食業業況判断DIの推移



4. 利用客数

- 利用客数D Iは前期から6.8ポイント低下、前年同期に対しては、ほぼ横ばいの▲30.3となりました。

図 I - 4 - ① 利用客数D Iの推移（全業種計）



- 業種別にみると、前期に比べ、「食肉・食鳥肉販売業」「ホテル・旅館業」の2業種で上昇しました。前年同期に対しては、「食肉・食鳥肉販売業」「理容業」「クリーニング業」の3業種で上回りました。
- 飲食業の業種別では、前期に比べ、上昇した業種はありませんでした。前年同期に対しては、「そば・うどん店」「中華料理店」「その他飲食店」の3業種で前年同期の水準を上回りました。

図 I - 4 - ② 業種別利用客数D Iの推移（飲食業を除く）

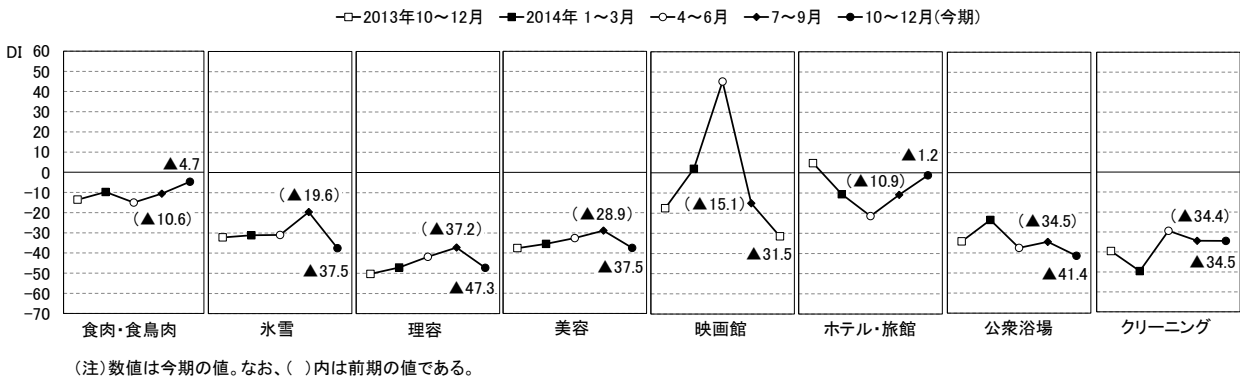
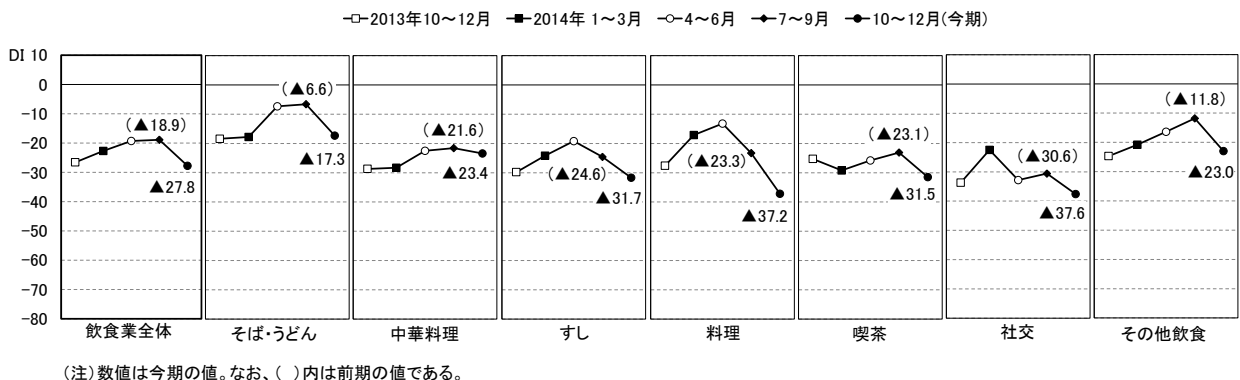


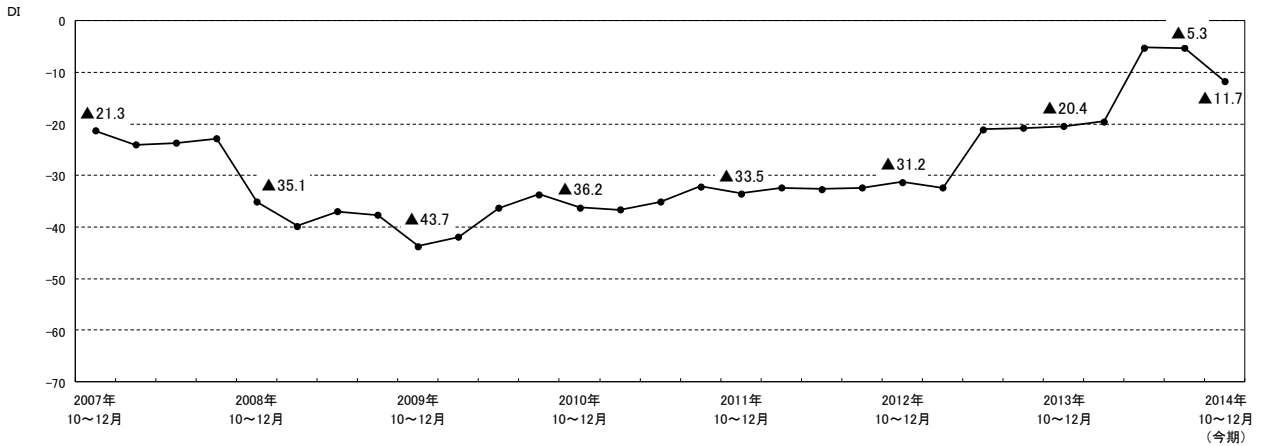
図 I - 4 - ③ 飲食業利用客数D Iの推移



5. 客単価

- 客単価DIは、前期から6.4ポイント低下して▲11.7となり、前年同期に対しては8.7ポイント上回りました。7期連続で前年同期の水準を上回りました。

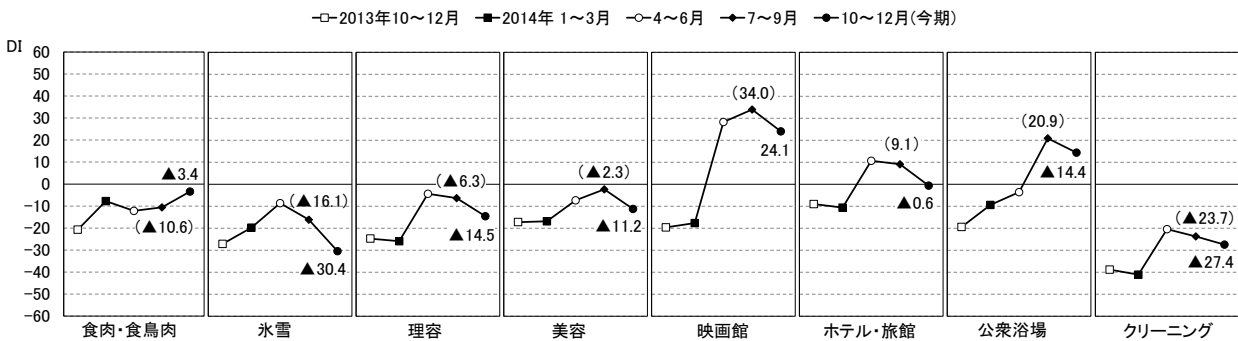
図I-5-① 客単価DIの推移（全業種計）



(注) 客単価DI=前年同期対比「客単価上昇」企業割合-「客単価低下」企業割合

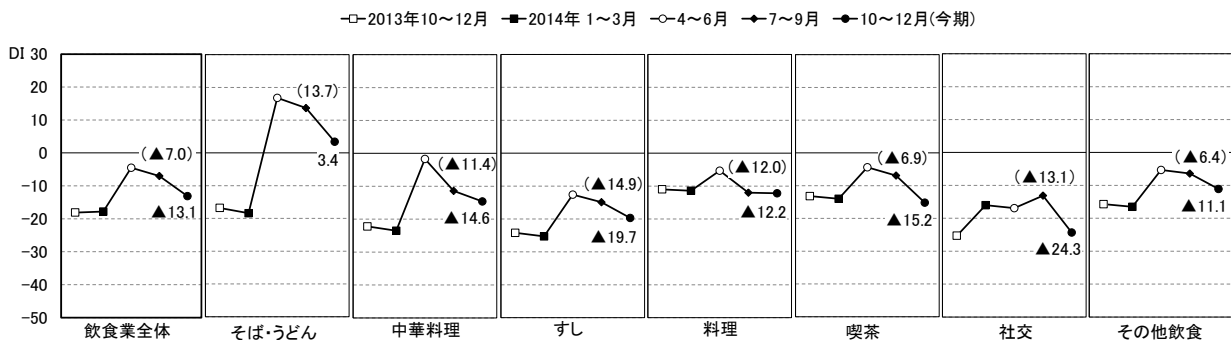
- 業種別では、前期に比べ、「食肉・食鳥肉販売業」のみ上昇しました。前年同期に対しては、「飲食業」「食肉・食鳥肉販売業」「理容業」「美容業」「映画館」「ホテル・旅館業」「公衆浴場業」「クリーニング業」の8業種で上回りました。
- 飲食業の業種別では、前期に比べ、上昇した業種はありませんでした。前年同期に対しては、「そば・うどん店」「中華料理店」「すし店」「社交業」「その他飲食店」の5業種で上回りました。

図I-5-② 業種別客単価DIの推移（飲食業を除く）



(注) 数値は今期の値。なお、()内は前期の値である。

図I-5-③ 飲食業客単価DIの推移



(注) 数値は今期の値。なお、()内は前期の値である。

II 設備投資の動向

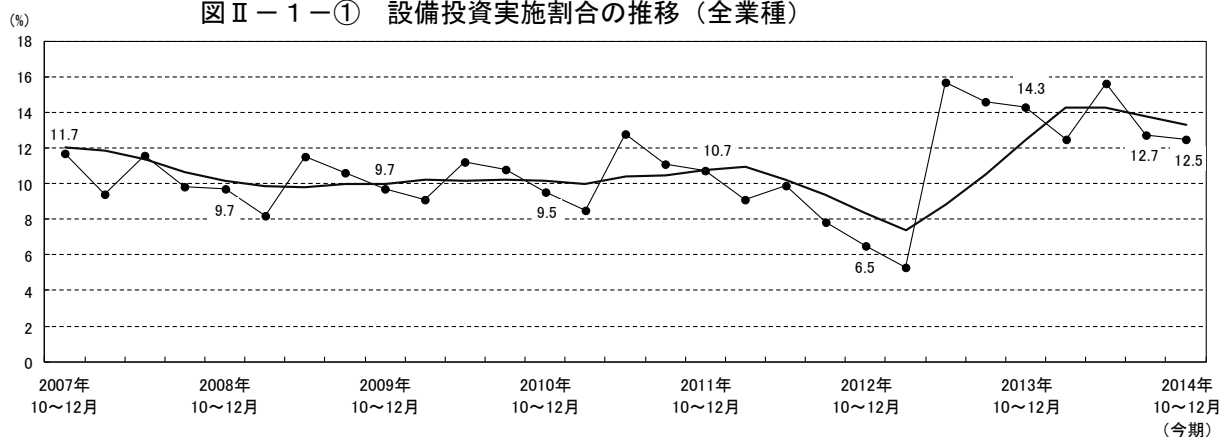
1. 設備投資の実施状況

(1) 設備投資の状況

今期（2014年10～12月期）に設備投資を行った企業の割合は、前期（12.7%）に比べほぼ横ばいの12.5%となりました。前年同期（14.3%）に対しては1.8ポイント低下しました。

生活衛生関係営業の設備投資は、持ち直しの動きが続いています。

図Ⅱ-1-① 設備投資実施割合の推移（全業種）

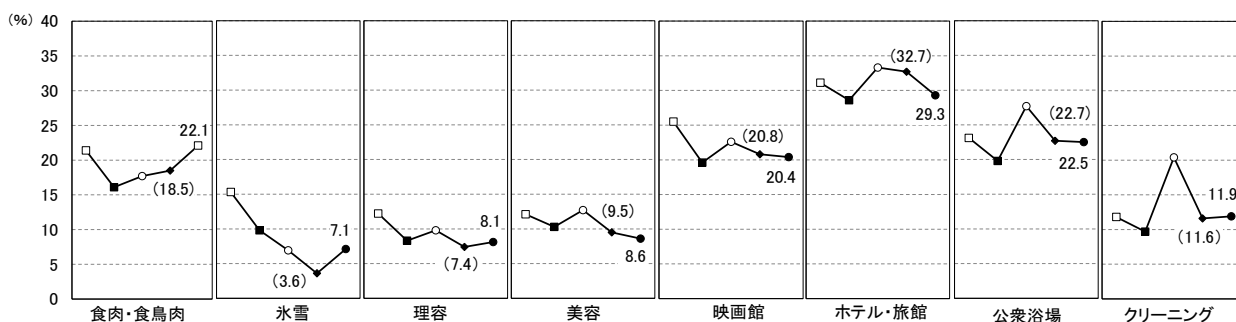


(注) 太線は4期間移動平均の推移である。

- 設備投資を実施した割合を業種別に高い順にみると、「ホテル・旅館業」29.3%、「公衆浴場業」22.5%、「食肉・食鳥肉販売業」22.1%となっています。「食肉・食鳥肉販売業」「クリーニング業」の2業種で前年同期の水準を上回りました。
- 飲食業の業種別に設備投資を実施した割合を高い順にみると、「すし店」16.4%、「料理店」12.7%、「その他飲食店」12.5%となっています。「すし店」「その他飲食店」の2業種で前年同期の水準を上回りました。

図Ⅱ-1-② 業種別設備投資実施割合の推移（飲食業を除く）

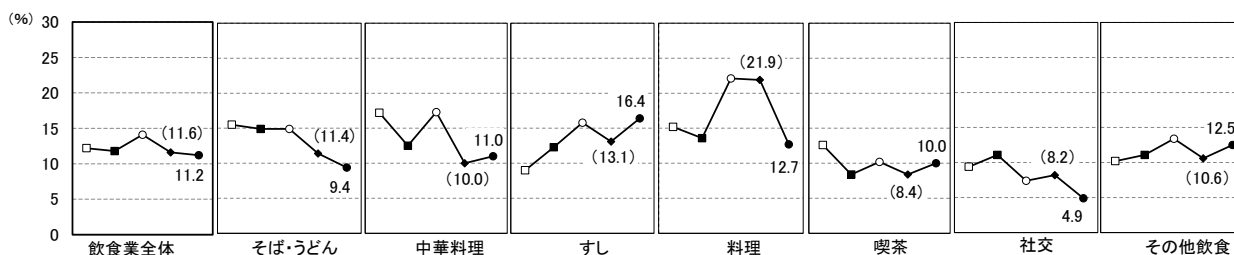
□-2013年10～12月 ■-2014年1～3月 ○-4～6月 ◆-7～9月 ●-10～12月(今期)



(注) 数値は今期の値。なお、()内は前期の値である。

図Ⅱ-1-③ 飲食業設備投資実施割合の推移

□-2013年10～12月 ■-2014年1～3月 ○-4～6月 ◆-7～9月 ●-10～12月(今期)

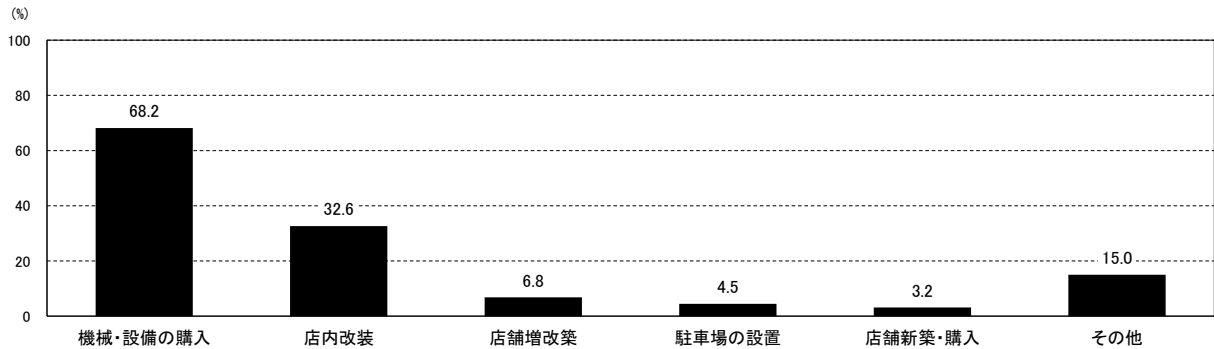


(注) 数値は今期の値。なお、()内は前期の値である。

(2) 設備投資の内容

- 設備投資の内容は、「機械・設備の購入」68.2%、「店内改装」32.6%、「店舗増改築」6.8%の順となっています。

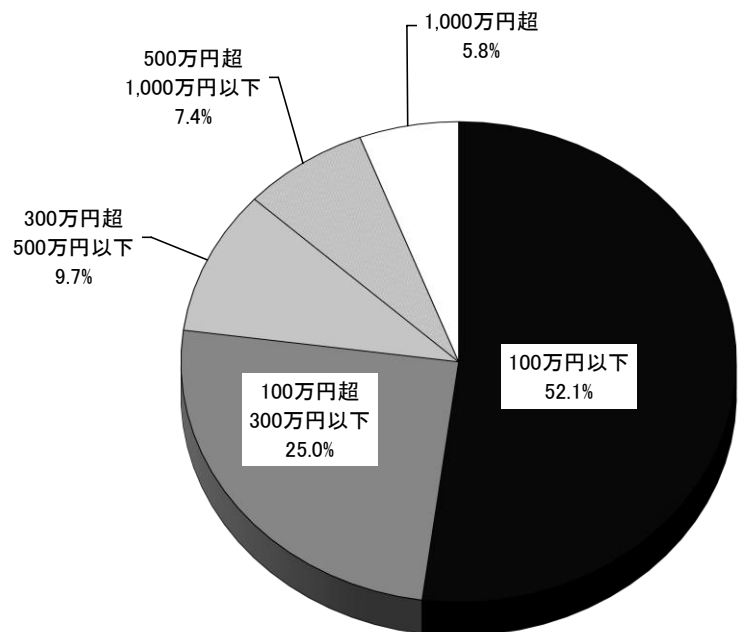
図Ⅱ-1-④ 設備投資の内容（全業種、複数回答）



(3) 設備投資金額

- 設備投資を行った企業の投資金額をみると、「100万円以下」52.1%、「100万円超300万円以下」25.0%、「300万円超500万円以下」9.7%となっており、500万円以下の小口投資が86.8%を占めました。
一方、「500万円超1,000万円以下」7.4%、「1,000万円超」5.8%となっています。

図Ⅱ-1-⑤ 設備投資金額（全業種）

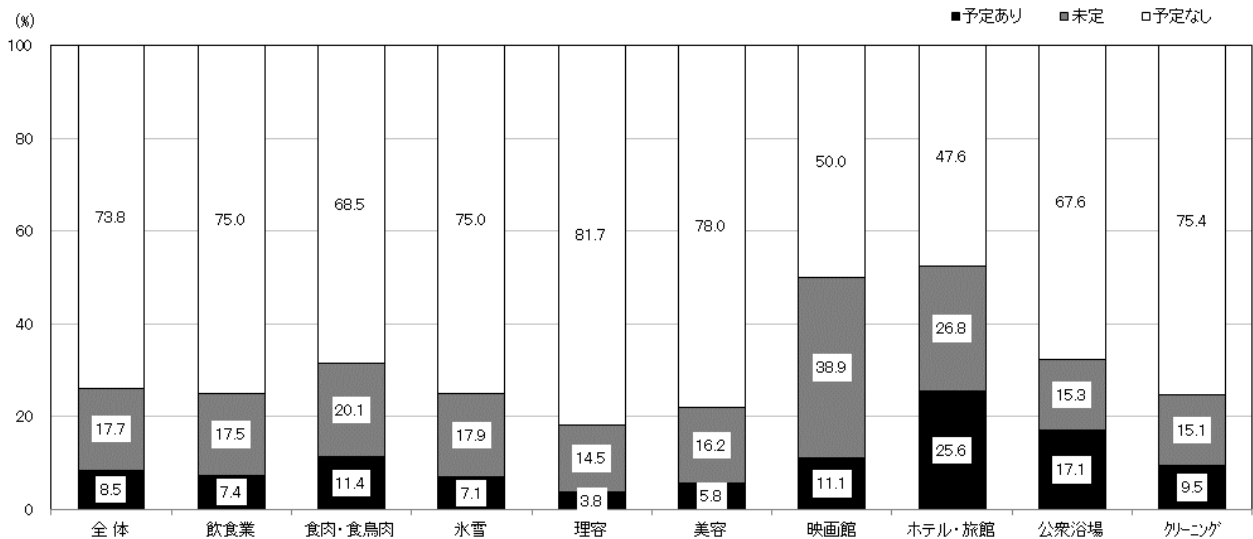


2. 来期以降1年間の設備投資計画

(1) 計画の有無

- 来期以降1年間の設備投資計画については、「予定あり」8.5%、「未定」17.7%、「予定なし」73.8%となっています。「予定あり」の企業割合は前期(8.4%)から0.1ポイント上昇、前年同期(10.2%)に対しては1.7ポイント低下しました。
- 設備投資を「予定あり」とする企業を業種別に高い順にみると、「ホテル・旅館業」25.6%、「公衆浴場業」17.1%、「食肉・食鳥肉販売業」11.4%となっています。

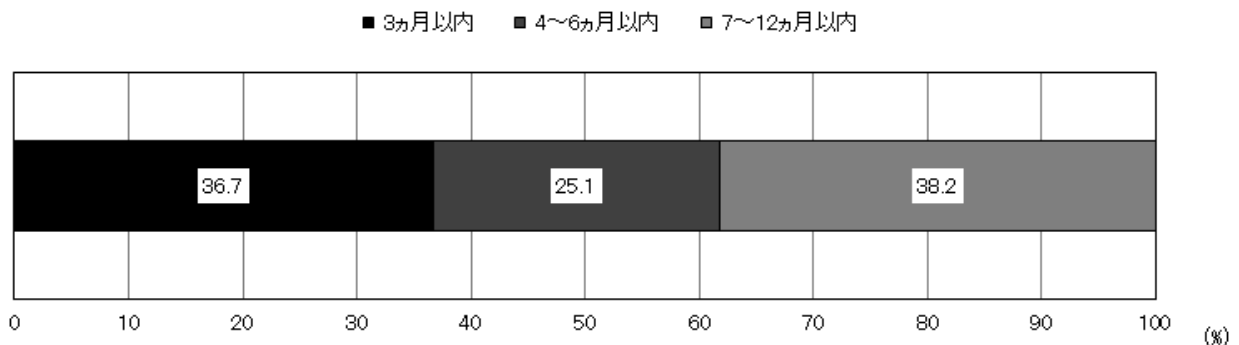
図Ⅱ-2-① 来期以降1年間の設備投資計画の実施予定割合(業種別)



(2) 設備投資の実施予定時期

- 設備投資計画で「予定あり」と回答した企業について、実施予定時期をみると、「3ヵ月以内」36.7%、「4～6ヵ月以内」25.1%、「7～12ヵ月以内」38.2%となっています。

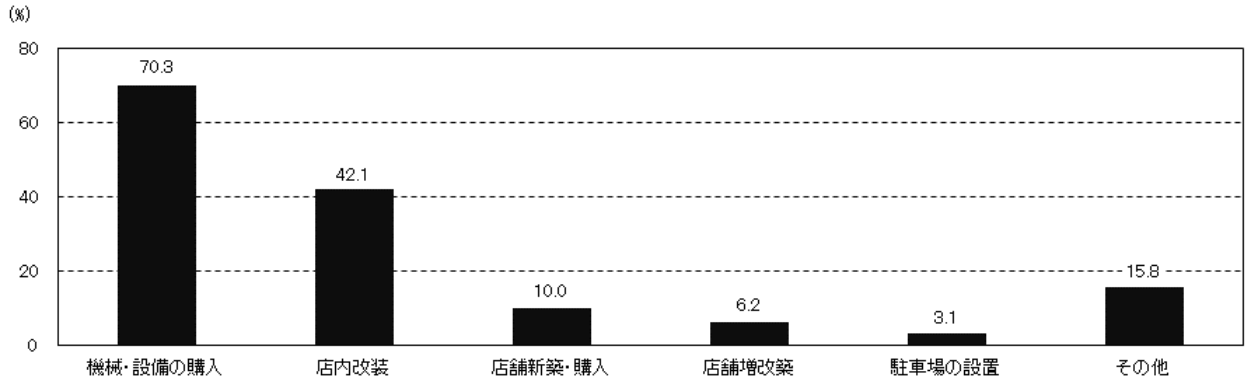
図Ⅱ-2-② 設備投資計画の実施予定時期(全業種)



(3) 設備投資計画の内容

- 設備投資計画の内容は、「機械・設備の購入」70.3%、「店内改装」42.1%、「店舗新築・購入」10.0%の順となっています。

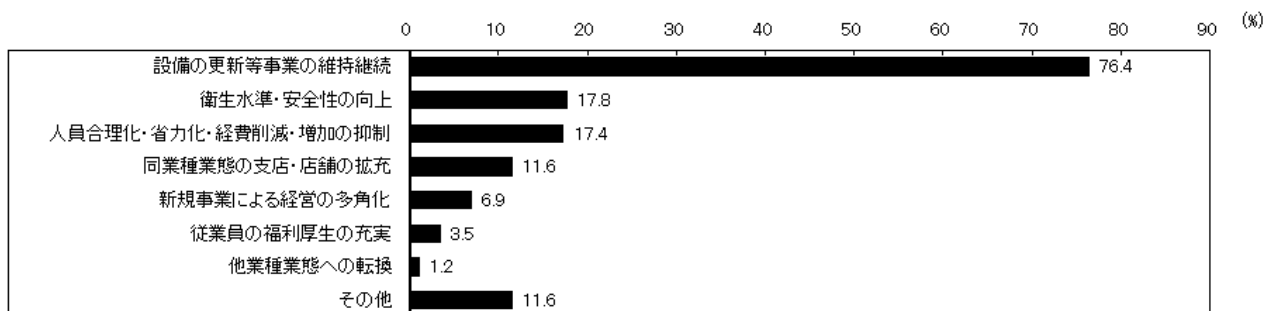
図Ⅱ-2-③ 設備投資計画の内容（全業種、複数回答）



(4) 設備投資計画の動機

- 設備投資計画の動機は、「設備の更新等事業の維持継続」76.4%、「衛生水準・安全性の向上」17.8%、「人員合理化・省力化・経費削減・増加の抑制」17.4%の順となっています。

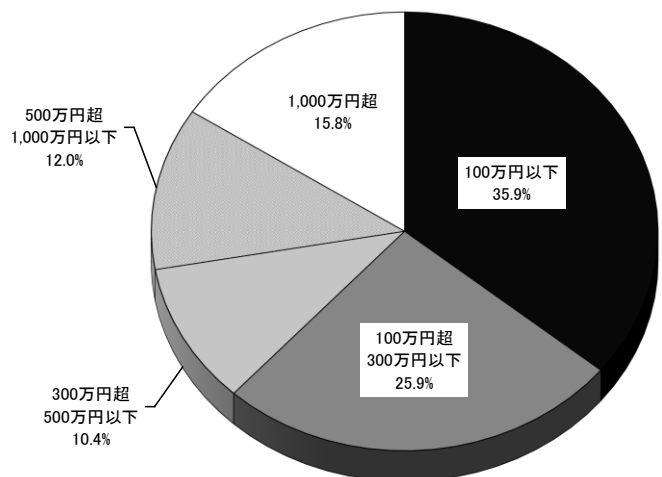
図Ⅱ-2-④ 設備投資計画の動機（全業種、複数回答）



(5) 設備投資予定金額

- 設備投資予定額は、「100万円以下」35.9%、「100万円超 300万円以下」25.9%、「300万円超 500万円以下」10.4%となっています。500万円以下の小口投資は、全体の72.2%を占めています。

図Ⅱ-2-⑤ 設備投資予定金額（全業種）



Ⅲ 経営上の問題点

- 経営上の問題点で多いものを順にみると、「顧客数の減少」56.2%、「仕入価格・人件費等の上昇を価格に転嫁困難」39.8%、「客単価の低下」23.1%、「店舗施設の狭隘・老朽化」20.5%、「従業員の確保難」17.1%となっています。
- 「ホテル・旅館業」は「店舗施設の狭隘・老朽化」、「そば・うどん店」「中華料理店」「喫茶店」「その他飲食店」「食肉・食鳥肉販売業」は「仕入価格・人件費等の上昇を価格に転嫁困難」、その他の業種では「顧客数の減少」を第1位としてあげています。

表 経営上の問題点（業種別、2014年10～12月）

(%)

項目	顧客数の減少	仕入価格・人件費等の上昇を価格に転嫁困難	客単価の低下	店舗施設の狭隘・老朽化	従業員の確保難	後継者難	事業資金借入難	その他	特に問題なし
業種合計	56.2	39.8	23.1	20.5	17.1	9.3	3.6	3.4	7.5
飲食業合計	49.9	49.4	21.2	17.2	18.8	9.4	4.2	2.8	7.7
そば・うどん店	44.2	54.7	13.8	19.3	19.3	11.6	4.4	3.9	7.7
中華料理店	47.4	52.0	22.0	13.3	19.7	13.3	4.0	1.7	6.9
すし店	50.8	43.7	23.0	12.6	20.2	10.4	4.4	3.8	9.8
料理店	57.3	46.0	25.3	20.7	16.7	4.7	4.7	2.7	7.3
喫茶店	50.0	57.8	11.7	21.1	13.9	12.2	2.8	3.9	5.0
社交業	64.3	28.6	28.6	10.4	22.5	6.6	2.7	2.2	11.5
その他飲食店	43.6	55.4	22.9	20.2	18.7	8.2	5.2	2.2	6.5
食肉・食鳥肉販売業	29.5	57.7	20.8	21.5	19.5	11.4	3.4	1.3	13.4
氷雪販売業	64.3	25.0	25.0	17.9	12.5	12.5	3.6	3.6	8.9
理容業	76.3	20.2	23.7	16.4	9.9	9.9	3.2	6.2	9.1
美容業	62.9	19.7	28.3	17.9	22.7	9.5	3.7	4.6	8.6
映画館	79.6	27.8	7.4	38.9	20.4	1.9	5.6	3.7	0.0
ホテル・旅館業	36.6	37.8	23.8	43.9	28.7	6.1	2.4	2.4	3.7
公衆浴場業	79.3	36.9	6.3	45.0	1.8	11.7	0.9	0.9	4.5
クリーニング業	62.7	46.4	34.9	19.4	7.1	8.3	2.0	2.8	4.0

(注)複数回答のため合計は100を超える。

IV 特徴的な業況判断理由（業種・地域別）

今期および来期見通しの業況に対する判断理由（地域経済、業界の特徴および経営面での取り組みを含みます。）について、特徴的なものを取りまとめると次のとおりです。

今期：2014年10～12月期 来期：2015年1～3月期

◆飲食業

業種	業況	地域	判断理由
そば・うどん店	今期	好転	京都府 外国人を含む観光客が増加しているため、業況は好転している。そのため外国人用の英語メニューの数を増やした。
		不変	兵庫県 サラリーマンは減少したが竹田城址等の観光客が増加したので、現状維持といったところ。
		悪化	宮崎県 材料の仕入価格が上がったため、ワンコインランチ（500円）をやめて日替わり定食（550円）を始めたが、お客様が2～3割減少した。影響が大きく対応策を検討している。
	来期見通し	好転	北海道 来期は新年会や選挙後で人の動きが多くなること、消費税増税時期の延期などで期待できる。
		不変	三重県 従業員の確保が難しい。お客様への対応が間に合わなくなりそうで心配。
		悪化	岐阜県 外食に対する消費意欲があまり上昇していない様子。春までは低迷するような気がしている。
中華料理店	今期	好転	北海道 昨年、組合でホームページを立ち上げた。メニュー等の掲載効果が現れ始め、出前等の客数が増加した。
		不変	岩手県 市内外の人口の流失も見られ、常連客も減少した。観光客の集客に向け、広告等のPR活動をしている。その成果もあり、不変を保っている。
		悪化	福岡県 4月の消費税の引き上げの影響が根強く続いており、ファミリー客の減少が痛い。先日、ラーメンを注文したお客が、持参したタッパーに入れたチャーハンを食べていたことがあった。節約ムードはまだまだ続きそうである。
	来期見通し	好転	徳島県 幹線道路沿いに家族ぐるみで利用しやすいフランチャイズ店を出店したところ、店の知名度が上がり、お客様の関心も高まっているようである。来店客の増加が見込まれ、好転が期待できる。
		不変	神奈川県 店のテーブルのサイズを120cmから60cmのテーブル2つにし、移動できるようにしたので5～6人で来て飲むお客様に喜ばれている。
		悪化	滋賀県 1、2月は雪等で天候不順のため、客足が鈍くなる。食材の高騰による利益幅の減少が予測される。
すし店	今期	好転	和歌山県 夏場に比べて2～3割客数がアップ。特に12月に入ってから好転した。若い顧客はインターネットで調べて来店する。
		不変	鹿児島県 客数はあまり変わらないが、単価が減少しているため売上が伸びない。お客様の会話にも景気のいい話はない。
		悪化	千葉県 大企業の株を持っている一部の投資家などは良くなっているが、個人商店など零細企業は消費税増税の影響が残っており良くない。
	来期見通し	好転	福岡県 円安で外国人の旅行客が増え、また、日本食ブームも手伝い売上が伸びている。消費税引き上げ時に価格を引き上げたが、それ以上に売上が上がったのは、アベノミクスのおかげだと思っている。
		不変	大阪府 地域の活気が低迷する中で、インターネット等による新しい客層の獲得を目指している。
		悪化	青森県 年始は帰省客等の集客が見込まれるが、2月に入ってから客数が減少し、また、飲酒をする人が減るので、あまり利益は上がらない。さらに、仕入の高騰も続いており悪化と判断する。
料理店	今期	好転	徳島県 全メニューをテイクアウト出来るようにしたことが浸透してきた。また、お客様のニーズに応えたヘルシーな弁当の評判が良く、価格の高い弁当

				の方が売れているため売上増加につながった。
	不変	奈良県		2年働いていたスタッフの急な退社が影響している。1人の営業では客数をこなせず、人件費が掛からない一方で売上が伸びなかった。
	悪化	愛媛県		DMやタウン誌への掲載など色々実施してみたが、費用に見合う売上がなく業況が悪い。仕入価格の上昇も響いている。
	来期見通し	好転	茨城県	インターネットを活用した「ふぐ」の産地直送により、安価なふぐコースを提供できるようになったので客が増えてきた。
不変		愛知県	インターネットを活用し、地域密着型にしつつあるので売上増加を期待したいが、仕入値が高騰しているのでは中々良くならない。	
悪化		静岡県	客足が伸びない。更新投資も必要だが、先行きの見通しもないため、控えている。	
喫茶店	今期	好転	愛知県	商工会の事業に参加して、お客様に割引等で還元したことで来店回数が増えた。
		不変	群馬県	店の情報をホームページ、ブログ、SNS等を活用して提供している。他県からのお客様の集客につながり、効果的である。
		悪化	山口県	平日の来客が減っているため、タウン誌やロコミ等を活用し、珈琲豆の販売に力を入れている。しかし、消費税引き上げが少しずつ重荷になり、節約志向が一段と強くなっているため、思うように売上が伸びない。
	来期見通し	好転	三重県	メニューの見直しと同時に価格の改定を予定しており、客単価の上昇(15～20%)が見込まれる。
		不変	山形県	消費税増税が先延ばしになった分、外食に消費してくれることを期待している。
		悪化	茨城県	円安によるコーヒー豆等の輸入材料の値上がりを価格に転嫁せざる得なくなり、利益の減少が見込まれる。
社交業	今期	好転	山形県	結婚式の二次会の需要が多かったため、売上が増加した。
		不変	兵庫県	常連客がほとんどで景気の動向にあまり左右されない。
		悪化	香川県	台風等の自然災害、寒暖差による客足の鈍りがあり、業況は回復していない。
	来期見通し	好転	静岡県	1月、2月はイベントが多く、観光客が増加するため、業況は好転すると思う。
		不変	長崎県	外国人観光客が増加しているので、嗜好に対応するよう工夫している。前期並みに売上は確保できる見込み。
		悪化	高知県	従業員の補充が難しい。お客様の接待に影響するのではと心配。
その他飲食店	今期	好転	千葉県	シルバー向けの宴会企画が好評で、1回当りの予算は少ないものの、回数が増えたため売上が増加した。
		不変	福島県	廃炉作業や汚染水問題など原発被害が続いており、風評被害の収束が見えない。県外の避難者が戻ってこないため、固定客が減少したままである。
		悪化	和歌山県	夏場に比べて相当悪い。月に3～4回来る常連が月に2回になるなど、来店頻度が減少しているため、3割程度悪化しているかもしれない。
	来期見通し	好転	福岡県	夏場の天候不順や台風により、野菜の価格が高騰し、利益を圧迫していたが、ようやく価格も安定し、収益が回復している。また、インターネット、特にフェイスブックで、看板メニューの仕込みの過程を細かく発信した結果、手作りの味をアピールでき、徐々に新規の顧客開拓につながっており、見通しは明るい。
		不変	島根県	政権が安定し景気が好転すれば外食に限らずもっと消費が増えると思う。
		悪化	岡山県	原材料等の値上げが続くと考えており、好転は見込めない。

◆食肉・食鳥肉販売業

業種	業況	地域	判断理由
食肉販売業	今期	好転	徳島県 小売部門では、口コミや紹介でリピーターのお客が増えている。進物やお歳暮等で地元特産の「阿波牛」等の注文が多く、全国各地の宅配利用による売上が伸びている。
		不変	鹿児島県 11月より豚肉の仕入価格が上昇しているが、全般的に販売が好調であり、トータルでは変わらない。
		悪化	群馬県 中心商店街のドーナツ化現象が進行しているため、来客数が減り、売上が減少している。対照的に、卸売の販売量が増加したため、何とか維持している。
	来期見通し	好転	大阪府 現時点では仕入原価の上昇もあって好況感はないが、今後は原価の減少が期待できる。
		不変	群馬県 月に1回、「肉の日セール」を設けている。この他にも、特売の日を増やすことで、集客に努め、売上の維持を図りたい。
		悪化	宮崎県 円安の流れが止まらないと思うので、輸入、国内とも豚肉・牛肉の相場上昇が続くと思う。価格上昇に合わせた販売を行う必要があり、今期同様、来期も販売増加はかなり厳しい。
食鳥肉販売業	今期	好転	福岡県 クリスマスや年末年始の需要が大きく、売上が増加している。また、景気が上向いているためか、お歳暮用の高級肉が例年に比べてよく売れている。
		不変	静岡県 客層の多くは高齢者である。
		悪化	香川県 国産品の原材料も高騰している。製品単価は価格を据え置いており、食品加工部門で収支が悪化している。
	来期見通し	好転	鹿児島県 老朽化した店舗を改装し、設備も一新したので売上増加が見込める。
		不変	東京都 消費税引き上げ後、売上は減少したがその後は横ばいで推移している。
		悪化	静岡県 消費税増税による消費抑制から、小口の買物客が増えるので、売上は目標を下回る見込み。

◆冰雪販売業

業種	業況	地域	判断理由
冰雪販売業	今期	好転	東京都 ブログを開設したことにより、一般の顧客からの注文、問い合わせが増え、売上増加につながった。
		不変	東京都 得意先が減少したが、同業者の廃業により新たな得意先を確保できた。
		悪化	神奈川県 円安の影響からイベント関係等で取引している会社は取引数量が減少するなど、業績はあまり良くなかった。
	来期見通し	好転	神奈川県 イベント（花火祭り）が多いと氷の需要があるため、配達する便を増やした。手応えがあったのでこのままイベントに力を入れる予定である。
		不変	栃木県 当業界は厳しい状況にあるが、来期は平年並みの業況となつてほしい。
		悪化	福井県 冬になると客足は鈍る。景気も良くないので取引先の飲食店の業況が悪くなる。

◆理容業

業種	業況	地域	判断理由
理容業	今期	好転	三重県 ホームページの効果が少しずつ出ており、女性客の増加もあって売上は前期比、前年比で上回っている。
		不変	広島県 最近僅かではあるが、売上の好転を感じる。これは前期から女性客を対象とした新規メニューのエステ、頭皮回復シャンプーやヘッドスパの導入効果が現れたものだと思う。
		悪化	長野県 円安が進み、地域内の精密機械工業関連の会社は好調に推移している一方で、少子高齢化が進展しているため、老人ホームへ入所されるお客様

				等も増えているので業況は改善しない。ヘッドスパの新技术メニュー等は好調に推移し、単価アップにつながっているが、人口の減少に追いつかない状況である。
	来期見通し	好転	高知県	ホームページの作成、市の広報紙でのPR、病院・介護施設や個人宅への出張理容で、少しずつお客様が増加している。
		不変	宮崎県	男性客が興味を持ちそうな店販品（消臭関係商品や育毛シャンプーなど）を店内に置いてみようと思う。
		悪化	山形県	寒くなるとカットのサイクルも長くなるので、期待できない。

◆美容業

業種	業況	地域	判断理由	
美容業	今期	好転	奈良県	ブログ等を見て来店された新規客が定着してきた、最終的には対面でのコミュニケーションが重要だが、きっかけとしてのインターネットの活用は不可欠になってきている。
		不変	秋田県	固定客の高齢化により来店回数が減っているが、店までの送迎サービスを行うことでカバーしている。
		悪化	香川県	お客様の来店頻度が少なくなっている。消費税アップの負担感が今になって出てきているのではないかと思う。
	来期見通し	好転	岐阜県	スタイリストの育成や技術力アップの教育課程を見直し、スタイリストの人数を増加したことにより、指名と売上アップが図れるようになると思われる。また、経費の各項目を細分化し、仕入の効率化を図ることにより好転が見込まれる。
		不変	山口県	冬場はサロンで染める方が増えると思うが、お客様の要望を取り入れながらパーソナルカラーの提案をしてサロンでのヘアカラーの定着につなげていきたい。
		悪化	福島県	店舗の立地条件が良いため、消費税増税の影響も少なく来客数や売上はほぼ横ばいであるが、従業員の流出防止のため、長期雇用の従業員の給与を大幅にベースアップする予定であり、業況は悪化する。

◆映画館・劇場

業種	業況	地域	判断理由	
映画館	今期	好転	東京都	映画祭イベント等の企画により若干ではあるが売上が増加した。
		不変	愛媛県	複数の老人施設へのプロモーションが成功し入場客は増加したが、顧客層である主婦が年末は忙しく少なくなるため、トータルでは前年並みとなる。
		悪化	愛知県	夏の興行終了後のこの時期は例年売上が落ち込む。
	来期見通し	好転	京都府	正月興行の時期となるので、アニメ作品を中心に若い世代の動員に期待できる。
		不変	群馬県	正月以降、特に大ヒットしそうな作品が無く、期待できない。
		悪化	静岡県	リメイク作品が多くなり、客数の減少が見込まれる。

◆ホテル・旅館業

業種	業況		地域	判断理由
ホテル・旅館業	今期	好転	大阪府	円安の影響がプラスに作用し、免税品目の拡大もあって、アジア系外国人の観光客が増えている。
		不変	神奈川県	箱根の旅館。外国人観光客が増えているため、全体を底上げしている。
		悪化	静岡県	新規オープンのホテルが増加した影響から、稼働率が低下した。
	来期見通し	好転	鳥取県	町内からの食事の注文が増えてきているので、少しは好転すると思う。
		不変	奈良県	和食やおもてなしへの関心が高まり、海外旅行客が増えたが、一時的なもので長く続くとは思わない。
		悪化	香川県	予約が徐々に減少している。消費税増税の影響が出てきているように感じる。

◆公衆浴場業

業種	業況		地域	判断理由
公衆浴場業	今期	好転	広島県	同業者が相次いで廃業しており、その分利用客が増えたことから好転に転じた。施設の利用者の利便性を考えた対応を行った成果でもあると考えている。
		不変	栃木県	燃料代が多少低下してきたが、業況に大きな変化はない。
		悪化	神奈川県	顧客の高齢化やスポーツジムの乱立の影響、そして9月から入浴料金が20円値上がりしたことも利用客の減少の一因となっている。好材料としては、土曜、日曜はインターネットを見て入浴する若者が少し増えた。
	来期見通し	好転	青森県	近隣にノボリを設置した効果が徐々に現れている。また、寒くなると、家庭のお風呂では物足りなくなったお客様が増えてくる。
		不変	大阪府	銭湯を単なる入浴施設としてではなく、運動サポートや体をケアする場所として利用できるように検討している。
		悪化	千葉県	急に寒くなり客足が遠のいてきた。気候的な面からももっと悪い状態になると思う。また、ガス燃料なので経費の高騰が気になる。

◆クリーニング業

業種	業況		地域	判断理由
クリーニング業	今期	好転	群馬県	秋祭りが終わり、銀行、会社、町内（住民）などが使った法被の洗濯が出てきた。その他の洗濯物も一緒に出てきたので、売上が増加した。
		不変	長野県	特殊加工のポスター等を貼り、お客様にとってのメリットをアピールした。その結果、多少なりとも効果は見られたと思う。
		悪化	秋田県	チェーン店に顧客が流れている。また、家庭で洗濯している人が多くなっているようだ。
	来期見通し	好転	大分県	コインランドリー化、レンタル化を検討している。ニーズの多様化に対応し売上増強につなげたい。
		不変	茨城県	消費税が上がっても価格は据え置いている。クリーニング以外のサービス（ほつれ、修理）をしているため、総じて客数は変わらない。
		悪化	福島県	顧客の高齢化が進む一方、若い年代はカジュアル化に伴いクリーニングの利用頻度が少ないため、状況はかなり厳しい。